

JFM だより

Vol.05

【拡大号】

**Winter &
Spring 2013**

今号の表紙

神戸市立医療センター 中央市民病院


JFMトピックス	1
自治体ファイナンスよもやま話	5
地方支援ダイアリー	7
特集・JFM融資部探訪	9
がんばる公営競技	11
融資の実	13
基金運用ひとくちメモ	17
人事交流日記	18
私たちもJFM買ってます	19
JFMからのお知らせ	19

地方の、地方による、地方のための



地方公共団体金融機構
Japan Finance Organization for Municipalities

融資の実



僕が融資した
事例を
紹介するよ!

今号の表紙

「神戸市立医療センター 中央市民病院」

今号の表紙で紹介している「神戸市立医療センター 中央市民病院」（以下、「中央市民病院」）は、神戸市の基幹病院として市民に貢献しています。最新の施設・設備および運営・サービス体制は、全国の自治体からも注目を集めています。



病院外観



講堂



エントランスホール

神戸市民の生命と健康を守る基幹病院

神戸市では、先端医療技術の研究開発拠点を整備し、21世紀の成長産業である医療関連産業の集積を図る「神戸医療産業都市」のプロジェクトを産学官連携で平成10年度から推進してきました。その舞台であるポートアイランドに位置しているのが、中央市民病院です。平成23年7月に、それまでの旧中央市民病院を移転して、新たに開院しました。高度な救命医療を担う「救命救急センター」の指定を受け、市民の生命と健康を守る「最後の砦」として、24時間365日、年間約70万人

の患者を受け入れています。

中央市民病院の基本方針は、「救急医療・高度医療・急性期医療」に重点を置き、医療産業都市の臨床部門の核として高度先進医療を市民に早期提供すると共に、「癒しとやすらぎ」の環境を併せて持った「患者本位」の医療を実現することです。救急医療充実策の代表例としては、救急部門と手術部門、屋上ヘリポートを直通でつなぐ専用エレベーターを設置し、患者が病院に到着後、検査・診断から治療までを迅速に行えるようにしました。



ホテルのロビーと見まごうかのようなデイルーム。
病棟への入り口にはコンシェルジュが待機し、様々な相談にのってくれる。

「患者本位」を実現する運営・サービス体制

「患者本位」の方針は、様々な運営・サービスで徹底。待ち時間対策では、診察の時間や順番を知らせる「院内呼び出し携帯端末」を導入し、患者は診察までの時間をレストラン、カフェ、庭園など「癒しとやすらぎの空間」で過ごすことができます。また、ポートライナー三宮駅などに再診受付機を設置。院外での受付も可能となっています。

患者が上下移動することなく受診できるよう、2階外来部門の受付・会計窓口、診察室に加え、主な検査機能を集約。小児科・産科は3階フロアに集め、移動距離や時間の短縮に配慮しています。病室は患者のプライバシーを守るゆとりある設計で、家族や見舞い客とゆっくり談話できる「デ

イルーム」を設置。各階にコンシェルジュを配置し、まるでホテルを思わせるような雰囲気です。講堂では健康に役立つ講演などを開催し、患者さんを中心に沢山の方が利用しています。

神戸医療産業都市のプロジェクトは現在も進行中で、スーパーコンピュータ「京」、話題のiPS細胞の研究を担う「理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター」や「先端医療センター」などの中核施設をはじめ、220以上の医療関連企業が進出し、その数はさらに増え続けています。今春には「神戸低侵襲がん医療センター」、平成27年には「兵庫県立こども病院」が開院予定です。

